



IFS CloudでAI導入とサステナビリティ管理を実現

IFS導入事例 - Cimcorp



ロボティクスソリューションプロバイダーのCimcorpグループは、IFS Cloudの導入後わずか3年で、本拠地に続く9か国に事業を展開しました。常に最新のAI機能を備えたIFS Cloudを活用し、各国の規制やコンプライアンス要件に対応しながら、全拠点で統一されたITシステムを運用しています。

Cimcorpは、倉庫や配送センター、製造施設における物流プロセスの最適化に使用される先進的なロボティクスソリューションを開発しています。運用コストの削減、トレーサビリティの確保、効率の向上を実現するCimcorpのシステムは、世界40か国の製造・物流拠点で採用されています。

同社は、10か国にわたる事業を単一のグローバルITシステムで運用しています。2018年からIFSを導入しており、2021年に本稼働を開始したIFS Cloudの最初のお客様でもあります。Cimcorpのエンタープライズアーキテクチャおよびデジタル担当責任者であるPekka Nurmi氏は次のように語ります。「当社はビジネスを迅速かつグローバルに拡大する必要がありました。各国のコンプライアンス、税制、レポート要件を満たすために、グローバル展開に適したERPが不可欠でした」

絶え間なく進化するエバーグリーン型デリバリーモデル

(定期的なアップデートを通じて常に最新の機能とイノベーションを提供する仕組み)

IFS Cloudに移行する最大の魅力の1つは、IFSが提供するエバーグリーン型デリバリーモデルです。システムは継続的にアップデートと機能強化が行われ、プラットフォームを常に最新の状態に保ちます。「報告義務、安全基準、サステナビリティ要件といった各国の規制は常に変化しています。エバーグリーンなプラットフォームであるIFS Cloudなら、ビジネスが常にコンプライアンスを維持できるのです」(Nurmi氏)

IFS Cloudの定期的なアップデートを通じて、Cimcorpは新たなトレンドやコンプライアンス要件、業務ニーズを反映させることができます。従来の大規模アップグレードでは避けられなかった、業務やサービスの中断も発生しません。「グローバルにシステムの一貫性を保つことは、当社のビジョンにおける重要な要素の1つです。複数のシステムで構成しているITインフラは複雑化するため、ビジネスの変革の足かせとなり、コストの増加や、戦略上致命的な判断

Cimcorpについて

村田機械株式会社（ムラテック）傘下のCimcorpグループは、タイヤ業界向けの物流システムや、食品・飲料、小売、eコマース、日用消費財（FMCG）、郵便サービス業界向けに高度なロボティクスソリューションを提供しています。フィンランドのウルヴィラに本社を置き、カナダとアメリカに子会社を持つCimcorpのシステムは、40か国以上で採用されています。

www.cimcorp.com

CIMCORP





IFSを利用するメリット

- ・ 複数拠点の情報を単一システムで管理
- ・ 作業負荷の軽減による時間とコストの削減
- ・ リアルタイムデータに基づく的確な意思決定
- ・ デジタルトランスフォーメーション (DX) と組み込み型テクノロジーの強化
- ・ ソフトウェアのカスタマイズなしに必要なビジネス機能を実現
- ・ IFS Cloudが実現するエバーグリーンなプラットフォーム (常に最新の機能・環境を保つ仕組み)
- ・ タブレットやスマートフォンからすべてのアプリケーションとデータにアクセス
- ・ イノベーション実現と新たなサービス開発をサポート

の遅れにつながる可能性があります。当社はIFS CloudでITインフラをシンプル化することで、お客様に価値と最高のサービスを提供することに集中できています。必要な機能を組み合わせられる統合プラットフォームのもと、新たなサービスを簡単に導入し、新しい国で迅速に事業を立ち上げ、現地の市場にサービスを提供できるようになりました」(Nurmi氏)

ビジネスの成果につながるIT

Nurmi氏は、ITベンダーと単なる取引上の関係から脱却して、ビジネスの成果につながるパートナーシップを実現する必要性を強く感じています。IFS Cloudへの移行は、円滑なITパートナーシップを通じて、業界の重要な知見とベストプラクティスを活用し続けたいというCimcorpの意向を明確に示すものです。「現在のIT部門は10年前と異なり、社内の重要な判断を行う役割から、ビジネス戦略に対して重要な成果をもたらす役割へとシフトしています。ITは、イノベーションと競争優位性を実現する重要な推進力です。当社はすべてを自社開発することは不可能だと判断し、IFSのような専門のパートナーを選定し、依頼しています。Cimcorpは、IFS Cloudを活用することで、ITとデータ資産の価値を最大化し、無理なくスマートな働き方を実現できると考えています」(Nurmi氏)

ビジネス戦略に注力し続けることは、Cimcorpの副CEO兼最高財務責任者(CFO)であるTommi Kumlander氏にとっても最優先事項です。「最新の正確なデータをコスト効率よく、常に利用できるようにしなくてはなりません。IFS Cloudは、ビジネスチャンスの発見、コスト削減、システム環境に関わるリスクの低減に役立っています。当社の中核事業でもデジタル化の潮流からより多くの恩恵を受けられるようにすると同時に、より良い顧客体験の提供に取り組んでいます」

IFS Cloudを活用して、新たな付加価値をもたらす顧客サービスの開発・提供を実現しました。この新サービスは、競争が激化する市場において強力な差別化要因となります。Cimcorpは顧客向けポータルサイトを通じて、価格の迅速な提示、購入プロセスの短縮と効率化、納期の短縮を実現しています。Kumlander氏は、さらなる可能性も見据えています。「将来的には、詳細なリア



ルタイムの情報でシステムの稼働状況と状態を確認し、潜在的な問題を予測して予防措置を講じることができるようになります。お客様の機器や使用状況に関するより多くの統計情報を提供して、システムの稼働時間を最大化できるようにしたいと考えています。また、拡張現実 (AR) ソリューションを使って故障の発見と診断を大幅に迅速化／改善できるため、現場担当者を遠隔操作で支援することも可能です」

すぐに使えるイノベーション

IFS Cloudに搭載された革新的なテクノロジーは、導入してすぐに使用できるため、導入後すぐにビジネス価値を生み出せます。「当社は現在、IoT、エージェントAI、機械学習 (ML)、デジタルツインといったテクノロジーに注目し、業務にもっと活用できないか検討しています」とNurmi氏は語ります。

Cimcorpの自動マテリアルハンドリングシステムでは大量のデータを生成するため、現在注力している分野の1つが分析です。「IFS Cloudによって、さまざまなお客様や複数拠点からのデータと分析情報を、当社のERP内に既にあるデータと組み合わせることができます。すべてのデータと分析情報に簡単に一括でアクセスできるようになれば、より当社に適したツールが手に入るだけでなく、お客様にもっと良いサービスを提供できるようになります」(Nurmi氏)

カスタマイズ不要のソリューション

Nurmi氏は、IFS Cloudが数千の顧客から得た知見を活かし、業界に特化した機能を標準で備えている点を、特に高く評価しています。「IFS Cloudは、当社が必要とするビジネスプロセスに対して“そのまま”機能することが確認できています。多くの企業がERPのカスタマイズに高額を費やしていますが、数年後にはそのほとんどの機能が使われなくなり、削除されています。IFS Cloudならコア機能に手を加える必要がないため、コスト効率の良いエバーグリーンなプラットフォームを実現できます」

AIの可能性を活用

AIが業務変革の要となる中、Cimcorpはその能力を活用して業務効率と洞察力の向上に取り組んでいます。同社はIFSの協力を得て産業用AIを導入し、日常的な業務の自動化、プロセスの最適化、データ主導型の意思決定を推進しています。IFS.ai Copilotの継続的な活用に加え、経費処理を自動化するQuick Expense Reporterや、展示会でのデータ入力精度を高めるCustomer Contact Automationなどの機能も活用しています。同社は産業用AIがこのような当初のユースケースにとどまらず、予知保全、サプライチェーンの最適化、より柔軟な生産スケジューリングにおいても極めて重要な役割を果たすことも想定しています。「業務改善の機会が多く見えており、将来的には適切に整理されたデータの必要性も高まると考えています」(Nurmi氏)

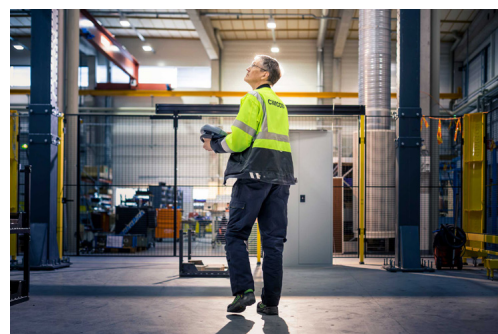
戦略的優先事項としてのサステナビリティ

外部からのプレッシャーと社内の価値観の双方から後押しを受けて、Cimcorpの長期戦略の柱となっているのがサステナビリティです。同社はIFSのEco Footprintモジュールのデータを活用して、資材の使用量や排出量の推定など、



「ITは、イノベーションと競争優位性を実現する重要な推進力です。IFS Cloudを活用してITとデータ資産を最大限に活用すれば、よりスマートな働き方を無理なく実現できます」

Pekka Nurmi氏
Cimcorpグループ コーポレートIT部門責任者



サステナビリティ関連データの追跡を強化しています。「サステナビリティは当社の重要な優先事項であり、適切に取り組んでいきたいと考えています。現在はIFSと協力してスコープ1とスコープ2の排出量追跡を導入し、部品マスタデータの整備を進めています。最近、Emissions Managementも導入しました。温室効果ガスの排出量を正確に監視、管理、報告することで、環境コンプライアンスと業務効率を強化できると期待しています」(Nurmi氏)

この取り組みでは、規制要件と企業の社会的責任 (CSR) 目標の両方を満たすために、材料の構成、サプライヤーの慣行、輸送手段などの詳細な測定基準を把握することに重点を置いています。Cimcorpの取り組みは、単なるコンプライアンス対応にとどまりません。産業用AIと分析機能を製品ライフサイクル管理に統合することで、廃棄物の最小化、資源効率の向上、循環型経済の原則に対応するための革新的な方法を追求しています。

IFSサクセスによる伴走

Cimcorpは、IFSサクセスも活用しています。価値に焦点を当てたパートナーシップであるIFSサクセスは、価値創出までの時間を短縮し、業務の卓越性を支援するとともに、IFS Cloudへの投資から企業が得る投資効果 (LTV) を最大化します。「当社はIFSのコンサルタントから、テクノロジーを活用したベストプラクティスの導入支援を受けています。IFSサクセスのフレームワークは、当社の業務と各国のコンプライアンス対応支援だけでなく、AIの導入や自動化などによるビジネス価値のより迅速な創出にも役立っています」(Nurmi氏)

Moment of Service™ (サービスの瞬間)

Nurmi氏は、企業のMoment of Service (サービスの瞬間) の実現を支援するというIFSのミッションに大きな信頼を置いています。「お客様は、当社が設計した自動化システムを何年も、ときには何十年も使い続けておられます。製品ライフサイクル全体にわたる正確なリアルタイムデータから多くの知見が得られることで、Cimcorpはさまざまな改善施策や革新的なソリューション/サービスを提案し、お客様を支援できます。IFS Cloudは、現在そして今後長きにわたってお客様に必要とされるターンキーオートメーションや、生産性の高い稼働時間を実現・提供するための全体像を示しています」



お問い合わせ

詳細は、IFSのWebサイト
ifs.com/jaをご覧ください。
お問い合わせは、**info.jp@ifs.com**まで
メールでお寄せください。

